

## 平成23年度予算の概況

私学を取り巻く環境は、18歳人口の減少や大学数、学部数の増加、私学助成金の減額などによる財政状況の悪化傾向が継続しています。

本学は、こうした状況下でも、生き残りをかけて、本学の基本理念を実践するため、「教育、研究、診療」の環境整備と創立80周年記念事業の継続的な実施に取り組む必要があります。

このような事業計画の方針に基づき、各部門から申請された事業計画の中から、本学の経営戦略上、必要不可欠な事業に限定して、予算措置を行うこととしました。

本年度の予算編成については、厳しい収支状況が予想されるところから、本学の経営指針である「帰属収支差額比率5%確保」を基本方針としながら、経常的な経費予算は「マイナスシーリング」を念頭に、全項目について根本的な見直しを行った編成とし、新たな事業予算は、その必要性、重要性、経済性及び効率性の検証を行った上で、必要最小限の予算措置としました。

更に、消費支出削減策として、各予算部署単位での「消費支出」を平成21年度決算額または平成22年度補正予算額のいずれか低い方の1%減で原則編成する。また、資金支出の施設、設備関係支出についても、特段の留意を払うとしました。

以下、理事会・評議員会の議を経て承認されました23年度当初予算の事業計画予算及び消費収支予算の状況について、概要をご報告します。

### [事業計画]

1. 教育、研究、診療の環境整備に関することにおいては、(1)教育活動を高めるための環境整備として①御井学舎校舎(教室、研究及び管理棟)の新築工事、②御井学舎情報教育センターシステム更新、③医学科第一実習室AVシステム更新、④附設高中校グラウンド、体育館整備事業ほか全17事業。(2)研究活動充実のための環境整備として、知的財産の創出、取得、管理、活用(平成17年度からの継続)。(3)診療情報の正確性と迅速化のシステム導入として①大学病院第三期病院総合情報システム(電子カルテ)導入ほか全2事業。(4)省エネ対策及び施設設備等の維持管理として、旭町地区の施設設備等の維持管理と、全学的な省エネ対策を行います。

2. 創立80周年記念事業においては、継続事業の①大学病院新築の最終年度分、②附設高中校校舎建築を行います。

### [消費収支予算の状況]

帰属収入合計は、50,579百万円となり、対22年度補正予算比で465百万円、0.9%減少しています。主な増減は、寄付金では、80周年記念事業募金が終了したため減、補助金は、経常費補助金を含む国庫補助金で大幅な減額を見込んでいます。事業収入では、受託事業収入の減、医療収入では、診療報酬プラス改定の影響で増額、雑収入で

は減額をそれぞれ見込んでいます。

また、基本金組入額は、1,396百万円を予定しており、その額を差引いた消費収入の部合計は、49,183百万円となります。

一方、消費支出の部合計は、49,686百万円となり、対22年度補正予算比で682百万円、1.4%減少しています。主な増減は、人件費の給与費では増額を見込んでいます。医療経費を除く教育研究経費の増は、減価償却費の増、附設高中校新築工事に伴う増などです。医療経費は、医療材料費の増額を見込んでいます。管理経費は、電子カルテシステム導入に係る事業費の増はあるものの、大学病院建築に伴う経費等で大幅な減額となります。資産処分差額では、大学病院、附設高中校の旧施設などは、前年度に処分したため大幅に減額となります。

以上のことから、帰属収入から消費支出を差引いた帰属収支差額は、893百万円（構成比率は1.8%）となっています。また、予算編成方針どおりの経費削減策は、全部門での達成はできませんでしたが、この経費削減方策は、継続して取り組んで参りたいと考えています。

このように、23年度におきましても、さらなる発展と教育・研究・診療の充実に全学を挙げて邁進する所存ですので、教職員・同窓会・父母の会等の皆様の一層のご理解と物心両面でのご協力を切にお願い申し上げます。